

89歳 男性

施設入院中、昨夜より黒色便持続しており、Hb 9.5 g/dL→4.0 g/dLへ低下し、血圧も低下したため当院に救急車で搬送された。

救急車到着時：意識清明 身長 157cm 体重 50kg 体温 37.2℃ 血圧 76/45mmHg 心拍数 98/分 呼吸数 25/分 SpO₂ 89%(r.a.) 顔面は蒼白、四肢に冷感と蒼白を認める。眼瞼結膜は軽度貧血様であるが、眼球結膜に黄染を認めない。腹部は平坦・軟で、肝・脾を触知しない。

血液所見：赤血球 192 万/ μ L,白血球 20300 / μ L(好中球 85.7 %, リンパ球 9.8 %, 好酸球 0.2 %, 好塩基球 0.1 %, 単球 4.2 %), Hb 5.9 g/dL, Ht 17.6 %, 血小板 27.4 万/ μ L. 血液生化学所見：AST 25 IU/L, ALT 21 IU/L, LDH 158 IU/L, ALP 166 IU/L, γ GTP 20 IU/L, 総ビリルビン 0.5 mg/dL, 直接ビリルビン 0.1 mg/dL, コリンエステラーゼ 80 IU/L, 総蛋白 5.9 g/dL, アルブミン 2.1 g/dL, 尿素窒素 66 mg/dL, クレアチニン 1.29 mg/dL, Na 137 mEq/L, K 4.2 mEq/L, Cl 110 mEq/L, CRP 7.8 mg/dL.

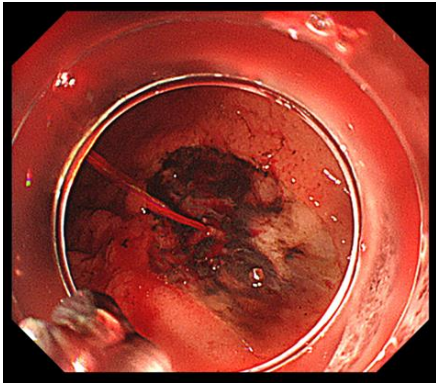
問1 まず行うこととして適切でないのはどれか。

- A ルートの確保を行う
- B 直ちに上部消化管内視鏡検査を行う
- C 輸血の準備をする
- D モニターを装着する
- E 酸素投与を開始する

問2 緊急上部消化管内視鏡検査を行う際、問診として必要のないものはどれか。

- A 前立腺肥大症の既往
- B 最終食事時間
- C ピロリ菌除菌歴
- D 緑内障の既往
- E アレルギーの有無

上部消化管内視鏡所見を示す。



問3 これに対する対応として考えられないものはどれか

- A 経過観察
- B PPI 投与
- C 外科的治療
- D 内視鏡的止血術
- E IVR(interventional radiology)

問1 b

問2 c

問3 a

胆膵

76歳の女性。

現病歴：1年前より高脂血症に対しアトルバスタチン開始したが、肝障害出現した。その後、休薬で改善したが、肝障害が残存していたためCT施行したところ異常を指摘され紹介された。

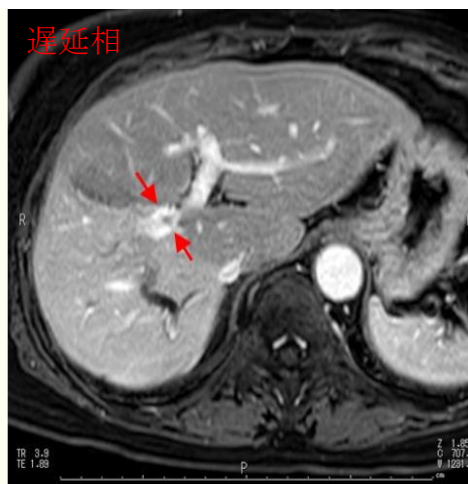
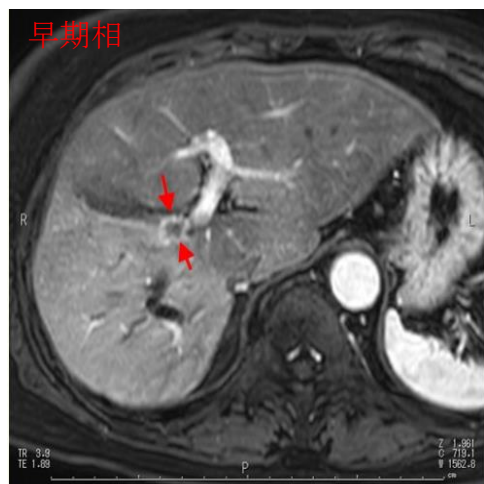
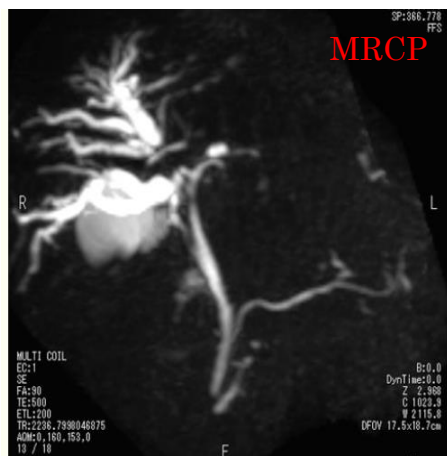
既往歴：狭心症 PCI 後 完全房室ブロック(MRI 対応ペースメーカー装着) 高脂血症 高血圧

服薬歴：アムロジピン、カンデサルタン、バイアスピリン、ラベプラゾール

喫煙歴・飲酒歴：なし

血液所見：赤血球 426 万/ μ L,白血球 7010 / μ L(好中球 68.9 %, リンパ球 26.1 %, 好酸球 1.0 %, 好塩基球 0.7 %, 単球 3.3 %), Hb 13.3 g/dL, Ht 40.5 %, 血小板 31.7 万/ μ L。血液生化学所見：AST 56 IU/L, ALT 60 IU/L, LDH 239 IU/L, ALP 1109 IU/L, γ GTP 1179 IU/L, 総ビリルビン 0.8 mg/dL, 直接ビリルビン 0.1 mg/dL, コリンエステラーゼ 259 IU/L, 総蛋白 8.0 g/dL, アルブミン 4.3 g/dL, 尿素窒素 16 mg/dL, クレアチニン 0.74 mg/dL, 総コレステロール 309 mg/dL, HDL-C 88 mg/dL, LDL-C 167 mg/dL, Na 140 mEq/L, K 4.3 mEq/L, Cl 104 mEq/L, CRP 0.15 mg/dL。

MRI を次に示す。



問1 確定診断の為にやるべき検査は次のうちどれか。

- a 上部消化管内視鏡
- b FDG-PET
- c 内視鏡的逆行性胆管膵造影(ERCP)
- d 腹腔動脈造影
- e 下部消化管内視鏡

問2 最も考えられるのはどれか。

- a 膵癌
- b 肝細胞癌
- c 胆嚢癌
- d 肝内胆管癌
- e 総胆管結石症

さらに検査をすすめたところ、転移はなく肝予備能も良好であった。

問3 治療として適切なものはどれか。

- A 経皮的エタノール注入療法(PEIT)
- B 経カテーテル的肝動脈化学塞栓療法(TACE)
- C 外科的切除
- D 肝移植
- E ラジオ波焼灼療法

問1 c

問2 d

問3 c